

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム 笑みの里 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成27年10月24日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中の扉の無施錠は勿論のこと、家庭的で温かい雰囲気作りを心がけ、ご利用者一人一人が安心してのびのびと過ごしていただけるとともに、ご家族や地域の方が気軽に来園していただけるよう努めている。また、ご利用者が主体となって互いに手を取り、助け合いながら日常生活を送っていただけるよう、スタッフはご利用者一人一人の能力を見極めるとともに、ご利用者が活躍できる場や機会を設け、自信や生きがいを見出しただけよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最高年齢97歳、平均介護度1.8の利用者は動きや反応も確かに健康です。玄関先では袋の中味をつひとつ確認して、「いざゆかん、態勢の利用者とも遭遇しました。9割が有資格者で知識を踏まえているほか7割が正職員で1名多い配置の時間帯を設けるというストレスが溜まりにくい職場環境を基盤に、生活行為自体がリハビリが実践されています。食後は全体を見渡して「ごちそうさま」の号令をかけ、後片付けは箒と塵取りを手にする人、布巾を携えて食器籠を抱える人とそれぞれが役割を自覚した流れるような光景が拡がります。2階にある居室と1階の共用空間を一人で往来する姿も少なくない公私の空間が際立ちます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、法人理念・聖句を復唱し、互いに確認し合うとともに、日々の業務に反映している。	「主体的に動いてもらう」「声を反映させるためにも耳を傾ける」ことに注視し、「生活行為自体がリハビリ」を日々実践しています。メゾネット形式ということもあって、階段を使って行き来する利用者も頻繁に見かけました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の散歩や買い物、園芸などを通じて地域の方との交流の機会を設けるとともに、夏祭りなどの地域行事に積極的に参加することにより、ご利用者が地域との繋がりを感じていただけるよう努めている。	毎日の散歩での挨拶から自然な形で馴染みとなり、野菜や花が持ち込まれています。また敷地内の畑には指導の声掛けが入ったり、タペストリーの大作も近所の趣味人が時節毎に掛けかえてくださっています。	園児や児童との交流が増えることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者とともに積極的に地域へと足を運び、交流などを通じて、認知症に対する誤解や偏見を少しでも解いていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointなどを使用し、ご利用者の日々の生活の様子をご覧いただいたり、参加者の方からいただいたご意見などは、グループ会議の場で職員に周知するとともに、改善策を検討し、実践に繋げている。	「家族に集まってもらいたい」考えを以て土曜日開催とし、隔月実施ならびに議事録作成も不足なくできています。普段は面と向かって頼みにくいことも場を介してできるため、民生委員との相互利益に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や提供事業所意見交換会に参加し実情報告を行っている。	事業所間の連絡会には必ず出席し、また事業所の運営推進会議の議事録もなるべく窓口に届けています。また御殿場市主催のふれあい広場には利用者と一緒に連れだっただけで出かけることが恒例になりつつあります。	認知症カフェも視野にいれていることですので、第一ステップとしてぜひ小・中学校での認知症サポーター養成講座の開催を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ会議の場で身体拘束に関する勉強会を行い、職員間で身体拘束ゼロに向けた共通認識を持つとともにご利用者の自己実現に向けた支援が行えるよう、常にご利用者主体のケアを心がけている。	玄関、窓も開けられ、室内には気持ちの良い風が流れています。9割が有資格者で知識を踏まえているほか、7割が正職員で1名多い配置の時間帯を設けており、ストレスが溜まりにくい職場環境にあります。職員が利用者に溶け込んで過ごす様子も視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ会議の場で虐待に関する勉強会を行い、職員間で注意を払うとともに、入浴時など全身状態の把握を行い、職員間はもとよりご家族とも情報交換をとるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括のスタッフを招き成年後見制度に関する勉強会を行うも、まだまだ効果的に活用できるまでの知識習得には至っておらず、今後も研鑽を要すると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金に関する説明は勿論のこと、日常生活を送る上でのリスク説明に関しては特に丁寧に説明し、ご家族・ご利用者に納得していただけるよう努めている。また、改定などの際は書面を用いて説明を行い、不明な点がある場合は気軽に問い合わせいただくよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、ご家族とは連絡を密にとり相互の信頼関係を築きあげるとともに、ご家族が意見を発しやすい関係づくりに配慮している。また、ご利用者に関しても常に傾聴の姿勢を持ち、些細な声も拾い上げる事のできるよう努めている。	遠方に住む家族には「笑みの里便り」とともに心身状態と生活の記録を郵送し、面会に頻回に訪れる家族には職員が直接近況報告をしています。家族アンケートにも「駆け寄って話をしてくれ嬉しい」とありました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員が意見を発しやすい環境づくりに配慮しているとともに、毎月行っている職員間の話し合いの場などでそれぞれの意見を伝える場を設けている。	開設時に法人内特養から配置された職員を主要メンバーとしているため、介護経験も十分に進言も活発です。またレクリエーションや広報など万遍なく役割が定まり、責任感と発言力を育てる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・非常勤ともに就業規則を整備しており、これを遵守するとともに、ワークライフバランスを意識した育児介護休業規則を制定し、運用している。またさらに各自が意欲的に働けるよう順次見直しを予定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体における階層別の研修の他、内部研修の開催や外部の研修にも計画的に参加できるよう機会の確保に努めている。また、自主研修補助制度を整備しており、自己研鑽を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各施設との交流の機会を持つとともに、事業所の実践発表をするなどして理解を深めた。また、特養や在宅部門の各事業所との合同会議や異動などを通じ、サービスの質の向上を図る事を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化などにより、戸惑いや不安を抱えているご利用者の気持ちに寄り添い、傾聴を行うことで一日でも早く新たな環境に慣れていただけるよう、職員間で連携を取りながらサービスを提供するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも安心して施設生活を見守っていただけるようお話を聞き、質問・要望があれば迅速に対応できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の段階でご利用者・ご家族両方の意向をしっかりと聞き出すとともに、在宅生活での様子などを基にご利用者の現在抱えている課題を見極め必要なサービス提供を決定するよう心掛けている。しかし、現時点では他のサービス利用に关해서는配慮できていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊敬の念を持ちご利用者と接する事はもちろんの事、日々の生活を通じて経験豊富なご利用者から学ぶ姿勢を忘れずに、互いに切磋琢磨するよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されてからもこれまでと同様に家族としての関係性を大切にいただけるよう入所前の段階はもとより、入所後もご家族に対して説明を行い、ご理解・ご協力を得られるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃よりご家族に対し、外泊や外出に関するご理解・ご協力をいただくとともに、親族や友人の方が気軽に施設へと足を運んでいただけるような環境づくりに配慮している。	「(私たちはあくまでも黒子)家族に代わるものはない」との方針は契約のときから節目ごとに家族に伝わり、頻回に家族と出かけることが続いています。また本年の正月にも3分の1の利用者が帰省しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が互いに支え合いながら日々の生活を送っていただけるような環境づくりに配慮するとともに、ご利用者が孤立しないように職員が介入し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰を果たしたご利用者・ご家族に対して、施設行事などへの参加の呼びかけを行うとともに、ご本人・ご家族・担当ケアマネから近況などを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の場であっても、個人の生活があることを念頭に置き、ご本人にとって快適な暮らしに近づけるよう可能な限り要望にお応えできるよう努めている。	江間の苺、山梨の葡萄やさくらんぼ狩り、下田に足を伸ばしたこともあり、全て利用者のリクエストから実現しています。またサービス担当者会議には利用者も同席し、家族と双方の合意をもってプランを作成しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまで利用したサービス関係者などから情報収集を行い、その方の人となりを理解・把握し職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや日常生活の様子、その方の言動や表情など常に観察する意識を持ち職員間で情報共有を行うことで、些細な変化にも気づくことのできるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・担当職員を主に職員会議の場などでその方の課題・目標を話し合い、その方の現状にあった介護計画が作成できるよう努めている。	外因とともに内因に着目し、気持ちを重視したプランづくりを旨としています。「家に帰りたい」想いを支え、回復につなげるプランとケアサービスによって在宅に復帰した事例は職員の自信にもなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を「生活記録」として個別に記録を行うとともに、特変が見られた場合や、職員の気づきなどがある場合は、連絡ノートや申し送りなどを通じて情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の想いに対し、常に柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や買い物、地域行事へ積極的に参加することで、地域の方と馴染みの関係が築きあげることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の段階でご家族に対し十分な説明を行い、ご家族のご希望に応えられるよう努めている。	従来からのかかりつけ医を継続する2名、加えて専門医への受診は家族にお願いしています。管理者も看護師資格をもち、また協力医は定期往診で認知症への造詣も深く、投薬がゼロになったケースもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の全身観察、日々の生活の中でのちょっとした変化を見逃さず、何かあれば看護師に報告するよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃よりご家族・関係医療機関のMSWと情報交換を図り、迅速な対応がとれるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の段階でご家族に対し当施設で行える事に関しての説明を行うとともに、ご利用者・ご家族の希望に可能な限り添えるよう、職員間・関係医療機関と連携が図れるよう努めている。	状態によっては入院や特養移行もありますが、事業所としては看取りを積極的におこなう考えです。職員も特養での経験者が大半で、また管理者を中心に急変時の対応について勉強会も開いています。開設から二年を経ておらず未だ実績例はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に会議の場で勉強会などを実施している。引き続き実施していけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災・地震に関する訓練を実施している。また、できるだけ多くの職員が参加できるように、同じ内容の訓練を複数回実施するよう心掛けている。また、運営推進会議の場などで民生員や行政に対し協力を呼び掛けている。	火災と地震と想定を分けて2回おこない、内容は水消火器や物干しと毛布での簡易担架を使った実践的なものとなっていますが、消防署の立ち合いはまだ経験していません。	消防署から専門的な助言を得ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、かけがえのない一人の人として常に尊敬の念を持って、ご利用者と接するよう心掛けている。	新人職員は必ず接遇研修を受け、また会議の中で議題に挙げて、現場に即した事柄を話し合っています。コーナーにはソファや畳のこあがりがあり、視線が外れた隠れ家的な居場所として重宝されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に思いや希望を表していただき、押し付けるのではなく自己決定できる支援を心掛けるとともに、ご利用者がご自分の想いを伝えやすい関係作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調や気分・要望に応じて無理なく、のびのびと過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びや化粧・髪染めなどといったおしゃれを楽しんでいただけるよう支援するとともに、衣類の汚れなどにも気を配るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者個々の能力を見極めながらできる事を自信を持って行っていただけるよう、支援するとともに、盛り付け・片付けに関してもご利用者同士が互いに協力し合いながら行う事のできるような環境づくりに配慮している。	野菜の筋とり等よく見かけるものではなく、ササミの整形や衣づけ、刻みと本格的な生活リハビリを確認しました。ワゴン車で配膳下膳をスムーズにする工夫もあり、利用者が主体となっております。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にとっての適量を見極め、丁度よい量を提供できるように配慮しているとともに、食事量や水分摂取量を記録に残し、摂取量の変化に気を配っている。また、水分摂取に関しては常に数種類の飲み物を用意し、少しでも多く摂取していただけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの支援、義歯の定期的消毒などの他、自力での口腔ケアが困難な方に対しても、できるだけ残存機能を使って行っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により、個々の排泄パターンを把握するとともに、日頃よりご利用者の様子観察を心がけ些細なサインを見逃さず、トイレにて排泄ができるように支援している。また、ご利用者の状態を見ながらオムツから綿パンツへの移行支援を積極的に実施している。	室内や共用に配されたエリアもあるため、各階6箇所全部で12ものトイレがあり潤沢です。パターンを掴んでオムツ外しに積極的に取り組み、布パンツは自立と快適さとともに家族にも経済的に喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の散歩や運動、細目な水分補給など規則正しい生活を送ることにより、なるべく下剤には頼らず、自然な排便が行えるよう支援するとともに、便秘によいと言われる食材を積極的に取り入れることで、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴していただけるよう、可能な限りご本人の希望などを聞き入れ、好みの時間に入浴していただけるよう努めている。また、希望があれば毎日の入浴も支援している。	浴槽は三方向から入れ、また室内も大変広くとられ、銘々の桶と消耗品を置く棚もあります。できるだけ希望の時間帯に入ってもらい、また「入りたい」とのタイミングに応えることができるよう前もって準備を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や畳・ソファなど各々好きな場所で安心して休んでいただけるよう支援するとともに、ゆっくりと休んでいただけるよう室温や照明調整などの環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報に目を配り用法などの把握を行う。また、日頃のご利用者の状態観察に努め、何か変化などが見られた場合は、往診時に医師へと報告するとともに、医師からの指示に関しては職員ノートへの記載や申し送り時に職員へ伝達するよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の趣味や得意なことなどに着目し、料理や裁縫、園芸などを通じて引き続き自信をもって生活を送っていただけるよう支援している。また、定期的に外食や外出の機会を設けることで、いつもとは違った雰囲気のもと気分転換を図っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者からの外食・外出への希望に対し柔軟に対応できるよう、日頃からご利用者の声に耳を傾けるとともに、ご家族に対しても定期的な外出・外泊支援への働きかけを行っている。	車輛はワンボックスを備え、また法人本部はリフト付きを快く貸し出してくれるため、「ラーメン食べたい」の声に速やかな対応が叶っています。また玄関先のベンチではバックの中味を一つひとつ確認して、「いざゆかん、態勢の利用者とも遭遇しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際など本人の希望によりお金を所持していただき、好きな物を買っていただけるよう支援している。また、日常生活においても、ご本人より希望があれば、一緒に買い物へ行き、品物を選んでいただけるなどの柔軟な対応を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族協力のもと、ご本人からの希望があれば随時、電話を使用しご家族と会話ができるように努めている。また、ご家族に対して年賀状作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる作品作りや装飾をご利用者とともにいたり、快適に過ごしていただけるよう、温度・湿度・音や照明調整などの環境整備にも配慮している。	敬老会の飾り付けを利用者が気に入ったことから赤や緑の花が天井に咲き、針に手慣れた職員と利用者で制作した壁掛けには安寧な暮らしが覗えます。朝掃出し夜間帯で拭きとり1日2回の清掃と布団も天日干しされ、灯りの照度も1日のうちで何度か替えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階・二階にそれぞれパブリックスペースを設け、ご利用者同士で会話などを楽しんだり、時にはお一人でのんびり過ごしていただけるよう環境作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の段階で、ご利用者・ご家族に対し説明を行い、ご利用者が使い慣れた家具などを可能な限り持ち込んでいただき、ご利用者にとって過ごしやすい空間となるよう心がけている。	ベランダにできることのできる大きな窓とそれに合わせたカーテンのドレープに趣きがあります。生花が花瓶で飾られ、皆で出かけた山梨旅行の思い出として赤いグラスが光る居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、ご自分で洗濯物の管理ができる方は居室に物干しを設置したり、トイレや居室の場所が分らない方に対しては可能な限り、トイレに近い居室を用意したり、居室前に目印を設けるなどの支援を行っている。		